2024年6月の総評に代えて

〇林　　桂〇

●和泉次郎（新潟県　49歳）●

局員は
ボクの郵便はかったり
ボクの身長はかったりした

【評】「局員」とは何者だろう。「郵便」をはかる「局員」は、郵便局員だろう。しかし、「ボクの身長」をはかる「局員」は、どのような「局」の「局員」なのか。

●常田　瑛子（山口県　37歳）●

永遠の蕾のままで空をゆく
気球は燃える花芯を包む

【評】気球を花のつぼみに見立てる。桔梗のつぼみが思い浮かぶ。「燃える花芯を包む」まで、巧みな修辞を楽しませてくれる。

●大山夏緒（京都府　25歳）●

葡萄は夜の卵

【評】短律句の表現効果が生きている。「夜の卵」の凝縮性が眼を惹く。

●ひろみ（京都府　21歳）●

さらさらと風に言葉を囁いて
木々はしずかな炎のかたち

【評】風になびき、音を発する木々。それが揺れる炎のように見える。「炎のかたち」の見立てが完結性を与えている。

●飛和（長野県　37歳）●

花びらで棺を満たすための旅

【評】離れて暮らしている親族の葬儀に参加するための旅であろう。「花びらで棺を満たすため」の追悼の思いが心に響く。

●池田　遥（福岡県　21歳）●

私と電話する暇もない母から送ら
れてくる子ウサギの動画

【評】離れて暮らす母は、心配して電話をかけ

てくるようなタイプではないらしい。電話をする暇なんてないわよと常日頃言っているようなのだ。しかし、飼い始めた子ウサギの動画はこまめに送ってくる。子どもが手元を離れた寂しさを、子ウサギが癒やしてくれているのが、子どもには透けて見える。

●加那屋こあ（東京都　52歳）●

罪
　　鋏
最後の手紙
　　青胡桃

【評】「MI」音の脚韻の多行表記作品。イメージの飛躍も快い。

●福山ろか（埼玉県　19歳）●

バイパスにつどう風あり花すすき

【評】市街地を避けて作られたバイパスは、薄野の中を進む。開けた空間を「つどう風あり」で言い止める。

●大西　美優（広島県　22歳）●

南風吹くナンの脂で濡れた指

【評】手でちぎって食べるナンの表に塗られた脂が指に残る。微妙な皮膚感覚。

●後藤　麻衣子（岐阜県　40歳）●

同棲初日素足でつくるオムライス

【評】同棲初日と言いながら「素足でつくるオムライス」は、それが日常の始まりであることを語っている。